



合同七草祝

昔 昭和62年1月



今



旧百引地区公民館で行われた「百引校区合同七草祝」の様子。現在と比べると、子どもたちの服装の違いが見て取れ、また、保護者の髪型などにも時代を感じます。以前は校区ごとに行われていたこの行事は、少子化などの影響により、平成15年から町民会館（現・輝北コミュニティセンター）に場所を移し、町内合同で行われています。



昭和62年当時の集合写真



毎年初詣の時期になると、市内外から多くの参拝者が訪れる吾平山上陵は、初代天皇・神武天皇の父君ウガヤフキアエズノミコトと母君タマヨリヒメの陵墓だと伝えられています。

「日本書記」などによると、ウガヤフキアエズノミコトが産まれる際、母トヨタマヒメは、鶉の羽を茅ぶきにして産屋を造っていました。屋根を葺き終わらないうちに産気づき出産。「鸕鷀草不合尊」という名はこれに由来します。

なお、出産の際、本当の姿である「やひろの鰐」の姿になっているのを、夫の山幸彦に見られてしまい恥ずかしく思ったトヨタマヒメは、産まれたばかりのウガヤフキアエズノミコトを残し、海神国

神武天皇の父君誕生

カノヤタイムトラベル

昔、鹿屋で起きた出来事にクローズアップ！



始良川岸にある洞窟の中に、2つの塚があるとされています。

に去ってしまいます。

その後の養育にあたった妹のタマヨリヒメは母乳が出ず、毎日作った飴を食べさせてウガヤフキアエズノミコトを育てたといわれます。この飴は「乳飴」と呼ばれ、吾平町の地名「飴屋敷」と深く関わりがあると伝えられています。

ウガヤフキアエズノミコトは、その後、タマヨリヒメを妻とし、神武天皇を含む4人の子どもを持ちました。

明治7年7月10日に、2人の陵墓として明治政府の治定を受けた吾平山上陵。町制を施行した昭和22年10月15日に、この吾平山上陵にちなみ、それまでの「始良村」を「吾平村」としたうえで、「吾平町」と改称し、現在に至ります。